

令和3年度 事業報告

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月31日

令和3年度、日本経済は、コロナ禍が終息し、成長軌道に戻ることが期待されていたものの、コロナ禍が思いのほか長引いたことにより停滞が続いた。

鉄骨需要は、東京オリンピック・パラリンピック関連施設工事等完了後の端境期の長期化に伴い、期待されていた大型再開発案件の着工は来年度以降に持ち越しとなった。一方、年度後半からの復調傾向は着実なものがあり、令和3年度の鉄骨需要は、466万トと、反転の兆しが見えてきた。しかし、年度を通じての工場操業は低位に止まり、力強い回復を実感するには至らない状況であった。

端境期の長期化は、一方でゼネコンなどの手持ち工事の減少を招き、厳しい価格競争の影響はファブにも及んだ。更に、急激な鋼材価格の値上げ及び納期延長に加え、人件費、輸送費など必要コストの上昇傾向などもあり、総じて厳しい事業環境であった。

こうしたコロナ禍での厳しい事業環境の下、昨年度に引き続き協会活動には多くの制約が強いられたが、委員会活動などは、ウェブ会議の導入により年度を通じてほぼ予定通りに行うことができた。また、コロナ対策に留意を払いつつ、正会員及び賛助会員との意見交換会を開催し、情報共有等を通じて会員間の連携強化を図ることができたことは、大きな成果であった。

陳情活動については、昨年度に引き続きコロナ禍の中ということもあり規模を縮小し、全構協との合同陳情ではなく、当協会単独での「意見交換会」という形で実施した。

ゼネコンとは、「今後の鉄骨工事発注の動向」「鋼材事情に基づいた適正価格での鉄骨発注」をメインテーマに、製品輸送、追加変更工事等への対応についても意見交換を行った。その結果、令和5年から6年にかけての出件ピークに向けたファブの果たすべき役割について確認することができた。

設計事務所とは、新型コロナウイルス禍に対応するためのウェブ会議及びウェブ検査について情報を得ることができ、また、ファブの生産性向上のためのBIMデータ活用の課題もあわせて確認することができた。

高炉メーカーへの訪問においては、鋼材の価格・納期に関し、ファブとして、一層の危機感をもって発注者との交渉に臨む必要性が確認された。

その他、計画事業のうち安全衛生講習会は開催することができたが、本年度の主要事業であった創立40周年記念祝賀会を始めとして、技術発表会、海外調査、賀詞交歓会など多くの事業は自粛を余儀なくされた。そのような中、40周年記念誌「40年のあゆみ」は予定通り発刊することができた。